

評価対象年度	平成26年度
--------	--------

政策評価シート

政策	5
----	---

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	5 産業競争力の強化に向けた条件整備	政策担当部局	総務部、震災復興・企画部、環境生活部、経済商工観光部、農林水産部、土木部、教育庁、警察本部
			評価担当部局	経済商工観光部

政策の状況

政策で取り組む内容

各産業の今後の成長のためには、技術力や生産技術の向上等を支える人材の育成・確保が最も重要であり、学校教育等と連動した人材育成体系の構築を進める。加えて、女性、高齢者、外国人などの力がこれまで以上に発揮されるとともに、若者などの能力を生かし、起業しやすい魅力ある環境づくりを進め、県内産業を担う人材の育成等を図る。

また、事業者の経営力や生産・販売力強化のための支援を充実していくとともに、資金調達環境等の整備を推進する。

さらに、県内産業の新たな飛躍のためには、その基盤となる交通・物流基盤の整備が不可欠であり、国内はもとより、アジアとの競争優位に立つため、東北の中枢空港である仙台空港、東北唯一の特定重要港湾である仙台塩釜港及び仙台塩釜港石巻港区のより一層の機能強化を図り、県内外にその活用促進を働きかける。併せて地域間の連携・交流促進のため、高規格幹線道路をはじめ、広域道路ネットワークの整備を推進する。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	平成26年度 決算(見込) 額(千円)	目標指標等の状況			施策評価
			実績値 (指標測定年度)	達成 度		
10	産業活動の基礎となる人材の育成・確保	1,230,377	ライフステージに応じた基幹プログラムの推進数(件)[累計]	14件 (平成26年度)	B	概ね順調
			県が関与する高度人材養成事業の受講者数(人)[累計]	952人 (平成26年度)	B	
			基幹産業関連公共職業訓練の修了者数(人)[累計]	812人 (平成26年度)	B	
			県立高等学校生徒のインターンシップ実施校率(%)	69.1% (平成26年度)	B	
			第一次産業における新規就業者数(人)(取組18に再掲)	- (平成26年度)	N	
11	経営力の向上と経営基盤の強化	101,955,879	創業や経営革新の支援件数(件)[累計]	1,098件 (平成26年度)	A	概ね順調
			農業経営改善計画の認定数(認定農業者数)(経営体)	5,811経営体 (平成25年度)	B	
			集落営農数(集落営農)	900集落営農 (平成26年)	A	
12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備	223,038,115	仙台塩釜港(仙台港区)のコンテナ貨物取扱量[実入り](TEU)	154,545TEU (平成26年)	B	概ね順調
			仙台塩釜港(仙台港区)の取扱貨物量(コンテナ貨物除き)(万トン)	3,672万トン (平成26年)	A	
			仙台空港乗降客数(千人)	3,221千人 (平成26年度)	A	
			仙台空港国際線乗降客数(千人)	161千人 (平成26年度)	C	
			高速道路のインターチェンジに40分以内で到達可能な人口の割合(%)	95.4% (平成26年度)	A	

- 達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」
- 達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 スtock型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)
目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

■ 政策評価（原案）	概ね順調
-------------------	------

評価の理由・各施策の成果の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・「産業競争力の強化に向けた条件整備」に向けて、3つの施策により取り組んだ。 ・施策10の「産業活動の基礎となる人材の育成・確保」については、5つ目標指標のうち4つで目標達成に至らなかったものの、その理由が企業のインターンシップ活性化や雇用情勢の改善等によるものであることや、その全ての指標で高い達成率(85～99%)を示していることから「概ね順調」と評価した。なお、「第一次産業における新規就業者数」については、農業及び水産業の新規就業者数が確定されておらず判定できない。 ・施策11の「経営力の向上と経営基盤の強化」については、集落営農組織の法人化や個人農業者の高齢化の進展等から、「農業経営改善計画の認定数」は目標には至らなかったものの、復興の過程で生まれたビジネスニーズ等にも対応した経営支援体制の充実に努めた結果、他の2つの指標は目標を達成したことなどから、「概ね順調」と評価した。 ・施策12の「宮城の飛躍を支える産業基盤の整備」については、原発事故の風評や外交の影響等から「仙台空港国際線乗降客数」の回復が遅れている一方、「仙台空港乗降客数」は目標を達成していることや、仙台塩釜港の活用及び高速道路の整備等に係る指標は、ほぼ目標を達成していることから、「概ね順調」と評価した。 <p>以上のことから、「概ね順調」と評価する。</p>

政策を推進する上での課題と対応方針（原案）	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・施策10については、後継者の育成を含めた農林水産業や製造業を中心とする産業活動人材の育成を通じて、震災からの産業復興をけん引することが求められているほか、少子高齢化の進展や産業構造の変化等を踏まえ、将来を見据えた人材育成に取り組む必要がある。 ・施策11については、被災事業者等の経営基盤の回復・強化が急務となっているほか、創業から販路確保までの総合的支援が必要となっている。 ・施策12については、海外との交流促進に向けた基盤整備・誘致活動等に引き続き取り組む必要があるほか、災害時でも地域の経済活動を停滞させないような防災機能を強化した基幹的社会基盤を整備していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策10については、「みやぎ産業人材プラットフォーム」を中心とした産学官連携の深化等により、地域の様々なニーズに対応できる人材育成体制の構築に引き続き努めるとともに、中長期的視点に基づく多様かつ先進的な人材育成施策の展開を図る。 ・施策11については、事業者の復旧・復興段階に応じた支援が適切に講じられるよう、関連団体と連携しつつ、各種支援制度のPR強化や事業者への総合的な助言等に努めていく。 ・施策12については、物流機能の強化や産業集積の促進等、引き続き拠点性向上のための基盤整備を推進しつつ、宮城の復興状況を広く発信していく。また、防災道路ネットワークの整備等、産業基盤の防災機能強化に取り組む。